

荒井会計通信



VOL.13

発行日 平成19年2月26日(月)
発行者 〒162-0825
東京都新宿区神楽坂3-1-17
ハイポイントビル5階
荒井会計事務所
TEL 03-3235-5180
FAX 03-3235-5190

『貧乏は成功のもと』と日経及び朝日新聞に1～2月に連載された紙面上で、ノーベル物理学賞を受賞者の江崎玲於奈氏、コメディアンのかんざん氏が各々のコメントで強く強調している。2人とも一時的に幼少のころは豊かな家庭に育つが、親の破産などで青年期はどん底の貧乏生活を体験する。その貧乏生活は自分自身を冷静に見る目を養い、自然に忍耐力・チャレンジ精神が身につく、その結果自分の真の力を引き出し、成功の源になっていく、と述べている。

荒井昇の辛口コラム⑬

【貧乏は成功のもと。いま人間社会はなにかが欠けている】



私が起業して30年が経った。高度成長時代もとっくに終わり、第一次・第二次オイルショックも経験し、低成長時代の幕開けの頃の開業だった。経営は簡単には軌道に乗らなかったが、2～3年で食えるようになっていた。この30年間に事務所スタッフ延べ20数名と出会い、一緒に一生懸命仕事に取り組んできた。この30年を事務所のスタッフと社会の状況をかみ合わせながら回顧して見ると。

最初の10年頃までのスタッフは、とにかく人材がバラエティーに富んでいた。ハングリー精神があり、内に秘める自己主張もあり、次のステップへ自然と進んでいった。

そのあとの10年はやや個性が弱くなり、個人の生活を優先する人材が増え、ネクラ人間が社会流行語になるなど社会との交わりがだんだん下手になってきた。

その後の10年の世代は戦後の豊かさの中で育ったせい、社会性がなく自分に自信がないのか、自分の殻に閉じこもった、おとなしい人間が多い。いま格差社会と言われているけど、優秀な人材と社会に順応できない若者との格差がはっきりしていて、落ちこぼれた若者が多すぎる。

ここ数年、異常な事件が続発している。標題に述べたが、多感な少年少女時代に貧乏生活を体験することは人間の成長にとって、社会にとっても大事なことはないだろうか。豊かさだけを追求するいまの資本主義制度は間違っているのではないか。いま世界的に人間関係が希薄になって来ている。

環境破壊はもとより、人間社会は既に破壊されてしまったようだ。今の資本主義社会が経済恐慌等により自然に破壊される前に、新しい魅力(質素で、中味のある、ゆったりとした生活を大事にする)ある経済理論の基に社会をやり直す時期に来ているのだと思う。

『前号からの連載シリーズ第13回』

【魅力ある安定した平和国家を築き上げるためには】

さて、2007年秋に始まったアメリカで起こった金融危機は全世界に飛び火し、2008年に世界恐慌に発展し

2010年までにアメリカ国家は崩壊する。当然日本人の生活も最悪になる。最近、話題になっている森永卓郎著の「年収120万円の時代」はそういう意味での得ている。いま日本人の一世帯当り年収は約500万円だから、当然生活はやっていけない。この困窮生活は3～4年つづく。この状況下でアメリカは自国の再建に背いっばいで、日本との友好関係は自然と失われる。政治経済戦略でアメリカは逆に日本に敵対してくる。忍耐弱い日本国民はまたいつか来た道(戦争への誘惑にかられる)を歩むことになるだろう。

次号につづく

入所ご挨拶 坂本 喜彦

皆様宜しくお願ひ致します、昨年12月に入所しました坂本喜彦です。経歴は民間企業に3年勤め、その後他の会計事務所に1年弱勤め現在に至ります。

私は1年で簿記1級と税理士試験1科目を取得したのですが、その受験生活の中で私の支えとなったのが次の言葉です。

信念

もし、あなたが負けると考えるなら あなたは負ける
もし、あなたがもうダメだと考えるなら あなたはダメになる
すべては人の心が決めるのだ！
もし、あなたが勝つと考えるなら あなたは勝つ
強い人が勝つとは限らない 素晴らしい人が勝つとも限らない
私は出来る！ そう考えてる人が結局は勝つのだ！

By 中村俊輔ノート

今後、仕事も含めた人生の中で試験など比較にならない程の状況がたくさんあると思います。この言葉を忘れることのないよう仕事に勉強に打ち込み、いつか皆様から信頼を得られるような人間を目指しますので、宜しくお願ひ致します。

